

●教科書紙面の変更点についての解説

従来、一般にローマ字で書き表す際には、昭和29年内閣告示に掲載の第1表(訓令式)に掲げたつづり方によるものとされ、場合によって第2表(ヘボン式と、訓令式と異なる日本式)に掲げたつづり方を用いてもよいとされてきた。それが、令和7年内閣告示において、第2表のヘボン式に基づくつづり方を取り入れて一つの表(本表)が示され、「si」と「shi」のように二通りのつづり方が示されていた音については、「shi」のようにつづり方が統一された。今回の教科書紙面の変更は、この変更を反映したものである。

●指導上の留意点

学校教育においてICT機器の活用が広がり、学習場面においても情報機器による文字入力を行う機会が増えてきているが、児童のローマ字入力には次のような課題がある。

- ① ローマ字の学習はアルファベットの小文字中心であるが、キーボードには大文字で示されていることが多い。
- ② キー配列が覚えられていないため探し打ちとなる。

本教材の学習にあたっては、アルファベットの小文字と大文字の対応を表などで掲示したり、入力の個人差に対応したたでてを講じたりするなど、児童の状況を踏まえて学習指導を進める必要がある。

文部科学省の情報活用能力調査では、小学生について「濁音・半濁音、促音の組合せからなる単語の入力に時間を要している傾向がある」ことが報告されている。本教材をよく確認しながら入力を行わせ、ローマ字入力の仕方について理解を図りたい。

●学習活動の計画(例)

学習内容：コンピューターでのローマ字入力の際に大切なことを知り、コンピューターを活用する。

時	学習活動 *留意点	評価規準(学習指導要領との対応)
1	1. 学習内容を理解し、コンピューターでのローマ字入力に興味をもつ。 2. P95の「ちゅういすること」を読み、ローマ字入力や文字変換の注意点を知る。 3. 入力時に注意すべき字を確認しながら、正しく入力できるようにする。 4. P94の練習問題に取り組み、ローマ字入力と文字変換に慣れ、ローマ字での打ち方を理解する。 5. 学習を振り返る。	<p>知識・技能</p> <p>◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)ウ)</p> <p>態度</p> <p>すすんで、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で読んだり書いたりし、学習の見通しをもって、コンピューターにローマ字で入力しようとしている。</p>

●設問と解答例

① 次の言葉を入力してみましょう。

「にっき」 ➡ nikki 「しゃしん」 ➡ shashinn/syasinn など
 「はなぢ」 ➡ hanadi 「みず」 ➡ mizu

② 次の言葉を入力して、へんかんしましょう。

「汽車」 ➡ kisha/kisya 「話す」 ➡ hanasu
 「ボール」 ➡ bo-ru